

CLOSE UP!



安全管理部について

徳島大学病院のような高度医療を担う特定機能病院には、その承認要件として院内の医療安全管理を専従で行う医師・看護師等を配置することが定められています。今回は本院において医療安全を推進する安全管理部について、部長の池本教授にお話を伺いました。

○ 安全管理部について

患者さんが病院や医療に対し、安全を求めることは至極当然のことです。徳島大学病院では患者さんはもとより、院内で働く職員の安全も担保するため、病院長をはじめとするリスクマネジメント体制の実働部隊として、安全管理が業務(右一覧参照)を行っています。安全管理部のスタッフは医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士や事務職員と、多職種で構成されています。現場の声を積極的に取り入れ、現場の状況と乖離しないことを念頭に、医療安全管理の推進や、そのためのシステム作りを行っています。

【徳島大学病院安全管理部の主な業務】

- 医療安全体制の整備
- 医療安全に関する考え方・方策についての職員への周知・研修
- インシデント事例の収集・分析と再発防止策の立案・検証
- 発生した医療事故等発生時の患者・医療者双方への支援
- 発生した医療事故等の原因究明、再発防止
- 高難度新規医療技術や未承認新規医薬品を用いた医療提供の事前審査と実施状況の検証
- インフォームドコンセントの適正な実施体制の整備
- クオリティインディケーター(QI)の計測・考察、及びその公表

○ 「世界患者安全の日」の取り組み

毎年9月17日は、患者安全の促進について、人々の意識・関心を高め、理解を深めることを目的に世界保健機構(WHO)により、「世界患者安全の日」と制定されています。徳島大学病院安全管理部では、令和5年9月15日に「世界患者安全の日」の周知イベントを初めて行いました。

イベントでは、テーマカラーのオレンジを用いて、徳島大学交響楽団によるミニコンサートや、徳島大学公式マスコット・

とくぼんの日安全管理部長就任、徳島県などと協同したライトアップなどを実施しました。イベントに参加された患者さんの中には「安全管理部」について初めて聞かれたという方も多く見られましたが、医療安全とは何か、ということを知っていただくよいきっかけとなったようです。

また、医療従事者のみならず、患者さんにもご自身の安全のために治療に積極的に参加いただくことは大切です。

患者さんへひとこと

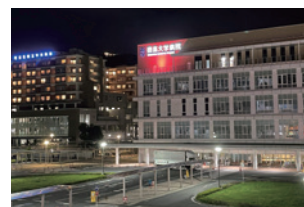
直接患者さんに治療を行う部署ではありませんが、より安全・安心な医療提供のために医療従事者自身が一丸となってそのような活動をおこなっていることを知っていただければと思います。

また、患者さんもご自身の医療の安全のために、治療の際の氏名確認にご協力いただくなど、医療に対する積極的なご参加をお願いします。

■説明は
徳島大学病院
安全管理部
教授・部長
池本 哲也
(いけもと てつや)



患者さんが治療内容を十分理解することによって防げる事故もあります。安全管理部では、来年度以降もこのアクションを周知するために「世界患者安全の日」の周知イベントを企画する予定です。



「世界患者安全の日」イベントの様子

○ 今後の活動について

安全管理部では、業務の一つとして、日々の診療の中で起こっているインシデントを収集しています。インシデントは重大な事故に至る前の医療上のエラーで、「ヒヤリ・ハット」も含まれます。医療は安全でなければなりません、どうしてもエラーが発生してしまうことがあります。しかし、それを未然に防ぐようなシステム作りや、仮に起きてしまった場合でも患者さんへの影響が最小限のものとなるようインシデントの原因分析や改善を行うためには職員からのインシデント報告は不可欠で、報告件数が少ない程良いというものではありません。本院では報告件数をさらに

増やすこと、医師・歯科医師からの報告割合を増やすことが課題となっています。安全管理部では、インシデント報告の必要性の周知はもちろん、報告がしやすい雰囲気づくりなどによって、より安心・安全の医療の推進に努めていきます。

また、安全管理部では、地域の医療機関に対し、医療安全に関する講演を行うなどの活動を行っています。また、県内唯一の特定機能病院として他院の手本となるような活動をしていければと考えています。